

ウッディチキン / 札幌例会

『 例会レポート 34 』

日 程	:	2008年6月11日(水)
会 場	:	札幌ビューティーアート専門学校 WEST館 6F 〒060-0061 札幌市中央区南1条西9丁目
参加者数	:	講習会=160名
講演会内容	:	PM8:15~10:50 伊藤豊代表「ウッディチキンの活動について」 旭山動物園副園長 坂東元氏 講話 「命をとおして伝えること」 (株)髪書房 千葉茂編集部長 講話 「美容専門誌づくりを通して見る美容の世界」
親 睦 会	:	PM11:15~AM1:00 出席者数約60名



レポート作成



ウッディチキン総事務局
谷口 隆



<http://woodychicken.com> info@woodychicken.com



< 前説 >

川根氏より

- ・大人が本気で語ることが大切だと思う。そうしないと若い者が付いてこない。
- ・川根塾では、育てる上において礼儀を重んじる。
- ・日頃の訓練をお見せしたい。(5名が前に出てカットの基本を披露)

< 司会進行挨拶 >

アルティ中西氏より

- ・開会宣言。本日の進行説明。伊藤代表紹介



< ウッディチキン伊藤豊代表挨拶 >

挨拶

- ・ウッディチキンは、申請から6ヶ月かかって、5月30日に正式にNPO法人の認可が下りました。主文の紹介(省略)
- ・ミャンマーでの震災で大変だが、その中で助かっているのが、ウッディチキンの方々の寄付で作った井戸だそうです。
- ・この井戸は、災害にも耐えられるように造っているので、今回のサイクロンにも耐えて、きれいな水が出ています。
- ・53本の井戸のお陰で多くの村人が助かっています。
- ・私たちの活動は大きくは、「徳を集める」(積善)と「人助け」です。
- ・日々の行いを良くしていきましょう。



< 旭山動物園副園長 坂東元氏 講話 >

「命をとおして伝えること」

プロフィール

1961年旭川市生まれ。1986年酪農学園大学酪農学部獣医学修士課程卒。同年5月旭川市旭山動物園就職。1995年飼育展示係長。2004年副園長。平成9年の「こども牧場」から「ちんぱんじー館」「レッサーパンダ舎」まで施設のデザインを担当、数々のアイデアを出し具体化してきた。また手書きの情報発信やもぐもぐタイムなどのソフト面でも係の中心となり具体化、システム化を図ってきた。現在は、オオカミの森の建築、エゾシカの森の設計を手がけている。著書「動物と向きあって生きる」角川書店、「旭山動物園へようこそ」二見書房



1. 入園者の推移

- ・私は旭山動物園の副園長をしています。
- ・獣医としてハサミを持つ事があるので美容師の皆さんとはハサミつながりですね。
- ・今は年間300万人が来られるが、10数年前、入園者が激減した。
- ・当時、入園者が「つまらない」と言って帰っていくのが辛かった。
- ・今環境を考えないといけない時にきている。
- ・入場者数に惑わされないで続けて行きたい。

平成6年8月エキノコックス発生で途中閉園	
平成8年入園者数26万人	どん底!
平成9年「こども牧場」「とどりの村」	30万人
平成10年「もうじゅう館」オープン!	35万人
平成11年「さる山」冬季開園	42万人
平成12年「べんぎん館」	54万人
平成13年「オランウータン」	58万人
平成14年「ほっきょくぐま館」	67万人
平成15年	82万人
平成16年「あざらし館」	145万人
平成17年「くもかび館」	206万人
平成18年「チンパンジーの森」	304万人
平成19年	307万人

2. 人気施設

- ・アザラシの施設が出来てから一気に人気が出た。
- ・それ以降、ベンチマーキングで外部の方が見学に来られることが多くなった。
- ・給料は上がらないが、来てくれた人たちの支援がモチベーションの原動力になっている。
- ・エキノコックスという寄生虫が発生して、一度閉園になっている。
- ・平成8年当時と比べ、今の方が動物の数は減っているくらいであるが、現在の300万人の来場者数は、世界の5本指に入る。
- ・地域柄、冬の寒さの時期だけは他の園には譲れない。
- ・他の動物園も全体で良くなって欲しい。
- ・当園は、完全な黒字経営になっている。(市にはおんぶされていない)
- ・今、エゾシカの施設を設計している。
- ・動物を飼ってみようというTV番組などがあるが、人間の都合であるような番組を作るのは賛成できない。



3. 老狼の結石

- ・老いた狼が体調不良で治療しなければならなくなり、近寄るために麻酔の入った吹き矢で何回も狙った。
- ・何回もやっていると、老狼は恐怖を感じ、吹き矢を向けただけで逃げ惑うようになった。
- ・そういうことが重なり、ある時吹き矢でショック死させてしまった。
- ・この時、治療は老狼に対してではなく、自分のために治療していたのではないかと反省した。

4. 象の足

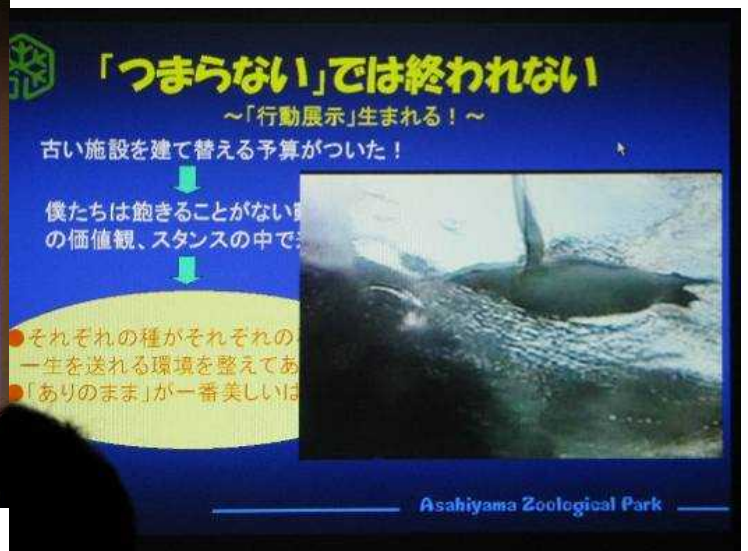
- ・象の右前足の裏が化膿してきた。
- ・痛くて辛いはずなのにその象の目はいつも穏やかだった。
- ・動物は何かがあってもそれを受け入れるというのが自然な行為である。
- ・その軸はぶれない。それは大変純粋で気高い。

5. 改善

- ・来園者が、アザラシを見て「ただのアザラシ」といった。そう言われたら全てチャラになってしまう。
- ・コアラは人気があり、名古屋、大阪に入った。しかし、コアラはエサ代に年間1000万円くらいかかる。
- ・当園のエサ代は、全動物で年間3~4000万円である。
- ・飼育係の人はしゃべるのが面倒くさいという人が多い。
- ・全員で、日曜ごとにワンポイント説明を順番にすることを決めてやった。
- ・初めは聞いてもらえず、無理やりやっていたが、20年続けてきてそれが定着した。これが当園の原点になっている。
- ・今の施設は、日頃話していることを形にしたものである。

6. つまらないでは終われない!

- ・動物の気持ちを代弁してあげるのが自分の仕事と思っている。



- ・タヌキ・キツネ
 - ・タヌキ・キツネの檻はにおいがきついので、人気がなかった。
 - ・穴などが好きなので、檻の手前に土管のようなものを作ったらそこに入るようになった。
 - ・そのところに覗き穴を作ったら、お客様が寄り付くようになった。
 - ・さらに、それにふたを付けたら、興味津々で寄ってこられる。
 - ・そうして人気が出るようになった。
- ・キツツキ
 - ・キツツキは、舌が異常に伸びて、木の中の虫を捕える。
 - ・観察方法として、木の片面を透明板にして、その取り方を見せることにした。
 - ・それによって見事に種類によって舌の使い方が違うのが分かった。
- ・ペンギンの散歩
 - ・ショー的パレードにはしない。
 - ・当たり前の姿を当たり前に見て頂きたい。
 - ・撫でるといふ行為は、こちらからの一方通行の感情でしかない。勘違いである。
 - ・境界は作らない。ロープを張らないといけなくなったらパレードは中止にする。



7. 入園者のマナー

- ・大人が割り込みする姿を子供が見ている。
- ・園内を全面バリアフリーにすることは不可能である。
- ・お客様は、手を貸してあげてをしない。
- ・車イスの人を先に行かせてあげることが出来ない。
- ・自分たちがお互いに譲り合い、先に行かせてあげるといふことをせず、すぐに係員を呼ぶ。

8. 当園の姿勢

- ・ありのままを伝えようとしている。
- ・施設は、新築した時より長く使っていると居心地が良くなる。
- ・看板は手書きにこだわっている。
- ・命を伝える。
- ・人間だけが自分の都合で動物を殺す。
- ・自然の中での寿命が4年の動物であれば、動物園では4倍の16年は生きる。
- ・ホッキョクグマが死んだ。ウジがわいていた。
- ・死ぬ間際まで水を怖がっていたが、最後に水に飛び込んで死んでいった。
- ・通常、動物の死はお客様には知らせないものとなっているが、当園では掲示板に貼り出して知らせている。
- ・命の大切さを教えていきたい。
- ・ありがとうございました。



< (株)髪書房 千葉茂編集部長 講話 >

「美容編集者人生 38年」

——美容専門誌づくりを通して見る美容の世界——

1. いままでの経験

- ・美容の出版関係に携わって38年のキャリアです。
- ・各誌を廻らせて頂いた経験から、今日はいろいろなお話をお伝えしたいと思います。
- ・新美容出版で月刊誌4誌の編集部のすべてで仕事を経験。
- ・そして、2002年に退職して、髪書房を立ち上げました。
- ・パソコンの利用で手書き原稿はなくなりましたが、基本のスタイルは変わりません。
- ・4人で髪書房を立ち上げました。
- ・常に半歩先を行く出版社でありたいと思って仕事をしています。



2. インタビューについて

- ・世界的美容界の著名な方のインタビューを多くさせてもらってきました。
- ・インタビューは、適切な答えを得るためには、適切な質問をしなければなりません。
- ・編集の仕事には段取る力、コメント力、質問力などが求められます。美容の仕事にも共通すると思います。
- ・本は、読むことで疑似体験が出来ます。
- ・ネットでの情報の検索はピンポイントであり、本人の興味の範囲に限定されます。新聞はその欠点がありません。
- ・新聞をぜひ毎日読みましょう。全体力が身に付きます。



3. ヴィダル・サッスンから読者へのメッセージ

・「特別企画・ヴィダル・サッスン伝説」インタビューより抜粋（月間BOB06年3月号）

Q.「最後に、読者にメッセージをお願いします。」

A. ヴィダルサッスン

「まず、夢を持つことが大切。現実的には失敗することがあっても、夢を持つことに失敗はありません。そして、その夢の現実に向かって考えて行動してごらん下さい。

人間は1人ひとり、感動する心や素晴らしい知恵を持っています。しかし、現代はテクノロジーが先行し、自分でモノを考える人たちが少なくなっています。それはとても悲しいこと。自分の内から出てくる感情や人間らしさこそが美容の出発点である同時に、最終着地点でもあるのですから。

生身の人間と向き合って自分のクラフトを出すことができ、そのクラフトによって相手の目が輝き、内面をも変化させてしまう美容にはそんな底知れぬ力があります。そんなマジックを使えるあなたたちは幸せです。それがまた、あなたの自信と尊厳を与えてくれるのですから。」

4. 美容業界への貢献

- ・これからも美容業界に貢献できるように頑張ります。
- ・ありがとうございました。

ありがとうございました。





～ ～ 別途写真集もお楽しみ下さい。 ～ ～

次回は 7月9日(水) 静岡例会でお会いしましょう。

例会に参加して、もっともっと、ソウルメイトの絆を深めていきましょう！